

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



大同の冬は零下10～20にもなるが、子どもたちは元気に遊びに興じる(撮影: 橋本紘二)

Contents

禍福は糾える縄の如し...新年にあたって	P 2
日中民間水フォーラムにむけて	P 4
関東ランチから	P 7

2004.1

95

禍福は糾える縄の如し…新年にあたって

2003年は、事の多い年でした。その影響を受けて、GENの活動も、思うようにすすまなかったことが多々ありました。そこで1年間をふりかえり、新しい年の展開をさぐります。

カウンターパートの交替

緑化協力事業に理解のない新任の大同市青年連合会主席と折り合いをつけようと1年以上がんばりましたが、とうとう断念。共産党大同市委員会との協議で、労働組合の連合体である大同市総工会が新しいカウンターパートになりました。大同事務所、環境林センターなどのメンバーや資産をそのまま総工会に移管して、気分も新たに活動に取り組めると張りきっています。

平和があつての環境協力

03年の世界に大きな影を投げかけたのは、イラク戦争とSARSでした。事あるごとに海外渡航自粛のあおりを受けて、労組などのツアーは中止されました。さらにSARSが追い撃ちをかけ、03年に実施できたのはGENの春のワーキングツアー（3/24～31）ただひとつ。環境NGOの活動には、平和と安定が不可欠だと痛感しました。

土壌浄化による汚水処理施設

一方で、環境林センターの土壌浄化による汚水処理施設の立ち上げに専念できたのは、ツアーがほとんどなかったおかげともいえます。浄化施設は春から秋まで無事にはたらきつづけ、厳寒の冬季は休止しています。この施設の基本設計をてがけた大阪産業大学の菅原正孝教授のチームは、その後も大

同を訪れて、運転状況をチェックして、問題点や改善方法を指摘・提案していただいています。第2弾として炭鉱水の浄化実験を開始し



『ぼくらの村にアンズが実った』高見邦雄著 / 日本経済新聞社刊 / 1,600円（税別）

ました（詳細は次頁）

『明日への環境賞』受賞

朝日新聞社の第4回『明日への環境賞』を受賞しました。全国250余りのNGO、市民団体、自治体、企業などの応募・推薦のなかから5団体が選ばれたものです。

大同の人びとといっしょに活動をつづけてきたことを評価していただいたもので、これからの活動へのはげみとなります。

『ぼくらの村にアンズが実った』

5月には、高見事務局長のメールマガジン「黄土高原だより」が、とうとう本になりました。新聞の書評などでも取り上げられ、読者からさまざまな感想を送っていただきました。なかには、亡くなられたおかあさんが中国に縁があったからと、カササギの森に香典の一部をご協力くださった読者もありました。感謝。

大同県で水害

7月25日、大同県、陽高県、南郊区で集中豪雨がありました。なかでもカササギの森のある聚楽郷の被害は大きく、鉄砲水で堤4人が亡くなり、130haの畑が土砂に埋まったそうです。カササギの森でも、谷筋の貯水槽が壊れたり、ポプラやヤナギが流され、造林地でも一部の苗木が土砂に埋まったりヒョウで葉をたたき落とされる被害ができました。しかし立ち直りは早く、埋もれたマツなどはすぐに掘りだされ、貯水槽は1週間で再建されました。

報道陣大同訪問

北京の日本大使館が主催して、中国11社、日本3社の新聞社・テレビ局が参加したプレス・エクスカージョンが大同を訪れました。農村を知らない中国の若い記者たちが、水のない桑干河や、アンズの豊作に喜ぶ渾源県呉城郷などを熱心に取材。いままでで最高の報道記事数を記録したそうです。

その後、11月には、JICA主催の「日中緑化協力ワークショップ」現地視察も受け入れました。

東京駅で写真展



洪水に流されたカササギの森の谷の木々

10月26日から1週間、念願の東京駅丸の内北口で写真展『中国黄土高原～砂漠化する大地と人びと』を開催しました。たくさんの方がたの応募・協力をいただき、おかげさまで成功裡に終了することができました。

おりしも中国の有人宇宙飛行成功が報じられ、「宇宙もいいけど、こういう問題の解決にこそ、お金をつかえばいいのに」という声もありました。



【2004年の課題】

・会員数の回復

これまでわずかずつでも増えつづけていた会員数が、昨年初めて減少しました。イラク戦争とSARSでツアー中止が相次いだのが一番大きな原因です。今年は会員数の回復をめざします。

・認定特定非営利活動法人に？

これから協力の輪をひろげていくには、寄付金に対する免税などの利点がある認定NPO法人が有利です。事務量の増加など負担も多いのですが、検討中です。

・水問題への取り組み

環境林センターの土壌浄化による汚水処理施設、炭鉱廃水の浄化装置、どちらも試運転でできた問題を解決して、普及をはかりたいところです。

4月には北京で青年団中央が主催する日中両国参加の水問題シンポジウムがあります（詳細は4頁）。

今年も緑の地球ネットワークの活動にご協力をよろしくお願いたします。

炭鉱廃水浄化実験はじまる

中国・大同市における水問題プロジェクトの第2弾、炭鉱汚水の浄化実験装置が2003年11月からスタートしました。場所は南郊区雲崗鎮吳官屯村の村営炭鉱で、雲崗石窟のすぐそばです。

水源は地表からの深さが130mほどの坑道。湧きだす水の量は少ないのですが、鉄、マンガン、硫酸イオンなどが多く、タール分もあって濁っており、そのままでは生活用水になりません。薬品その他を必要とせず、設備が簡単で運転コストの安い鉄バクテリア法を採用することにしました。中国

製の遠心ポンプで汲み上げ、塩ビパイプを加工した浄化槽で、5種類の濾過材の効果を比較しています。微生物が繁殖し効果が確認できるまでにはもう少し時間が必要ですが、濾過だけでも相当にきれいになり、洗濯や浴用など飲用以外の目的には十分使えそうです。

このプロジェクトのために、大阪産業大学の菅原正孝さんのチームが2度にわたって現地を訪れ、さまざまな提言をされています。緑の地球ネットワークのなかでも、このような問題に強い数名の会員が、いろいろ知恵をだしているところです。(高見邦雄)



工夫をこらした浄化装置。簡単な仕組みのなかに日中両国の知恵が詰まっている

ご寄付

12月8日、国際ソロプチミスト奈良6クラブから緑の地球ネットワークへ132,500円の緑化協力金をいただきました。あわせてメンバーのみなさんに高見事務局長から黄土高原緑化協力についての報告をおこないました。

国際ソロプチミスト奈良6クラブ(奈良・あすか・いかるが・まほろば・平城・平群)からの黄土高原緑化活動へのご協力は10年目になります。この間、2回のツアーが黄土高原の協力地を訪問しています。

一番ながく続けていただいているGENの協力団体です。感謝とともに今後ともよろしくお願ひいたします。

講演会のお知らせ

どうなる世界の水問題

小麦1tを生産するために、何tの水が必要? ヴァーチャルウォーターって何? 注目の研究者、沖大幹さんに講演していただきます。

日時: 2004年1月23日(金) 18時30分~20時30分

場所: 大阪市立総合生涯学習センター(大阪駅前第2ビル5階)

講師: 沖大幹さん(東京大学生産技術研究所助教授)

参加費: 700円(資料代として)

問合せ・申込み: GEN事務所まで

いますぐできるGENへの協力

会員になってください!

まだ会員になっていない方、ぜひ会員になってGENの活動を支えてください。また、環境問題や国際協力に関心をお持ちの知り合いに、会報の購読などをすすめてください。

カササギの森にご参加ください!

1ha分5万円を1口としてご協力いただいている大同県聚楽郷のカササギの森は実験林場として期待されています。スタッフの熱心さは驚くほど。みなさんのあたたかいご協力をお願いします。

緑化基金、運営カンパもとむ

金額はいくらでもけっこうです。みなさんのお気持ちをわけていただけると嬉しいです。

ビデオ『よみがえる森』ご購入を!

沙漠化、水不足など黄土高原の環境問題とGENの緑化協力を30分にまとめました。価格は5,000円、GEN会員価格は4,000円(送料270円別途)です。教材にも好適。

絵はがき『中国・黄土高原』

橋本紘二さんの写真で制作しました。『春』『夏』『秋』『冬』『緑化』の4種類、それぞれカラー8枚組、1セット(8枚)300円(送料別)です。

使用済みプリペイドカード回収

使用済みプリペイドカードを換金して苗木代にあてています。現在、2~

8枚でマツ苗1本分になります。対象はテレカ、各種交通機関(JR、地下鉄、私鉄、バス)プリペイドカード、ハイウェイカード、図書カード、ふみカード等。テレカとそれ以外のカードを分けて、輪ゴムで束ねるなどしてお送りください。折れ、汚れ、キズのあるもの、テレビカード、パチンコのカード、JRAカードは対象外です。

書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のハガキを回収して、通信費にあてています。古切手回収もはじめました。記念切手、普通切手、外国切手、なんでもOKです。

商品券などをお寄せください

ご家庭で眠っていて使うあてのない図書券、文具券、各種商品券がありましたらお送りいただくと嬉しいです。

ボランティア募集

ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに、GEN事務所から連絡します。

出版物をご購入ください

『ぼくらの村にアンズが実った』(前頁参照) GEN価格1,600円+送料290円

『中国黄土高原~沙漠化する大地と人びと』橋本紘二写真集/東方出版/定価6,000円(税別)/GEN価格6,000円(送料サービス)注文はGEN事務所へ

日中民間水フォーラムにむけて

湯本 淵 (中華全国青年連合会副秘書長)

新年を迎えるにあたり、私は、中華全国青年連合会で長期間国際交流を担当してきた一員として、「緑の地球」読者の皆様、日中環境協力に関心と支持を寄せてくださっている各界の友人の皆様に対し、謹んでご挨拶を申し上げます。

近年、私も緑の地球ネットワークの友人と一緒に、人類の生存及び発展にかかわる戦略的観点から、日中青年交流の新しい分野と日中環境協力の新しい方向を模索していますが、そのなかで「水問題」が重要な課題としてあらわれてきています。

世界に目をむけると、経済と社会が急速に発展する21世紀において、水資源をいかに保護し合理的に利用するかという問題は、それぞれの国と民族が力を入れて解決すべき重点分野となり、世界の大多数の国において、持続可能な発展を追求する過程であるそかにできない課題となりました。

中国においても水は、中国が「小康」社会を実現するための重要な前提条件であり、日常生活においても、水に余裕があるかないかが都市化の進行過程に影響をおよぼします。水汚染と水不足が中国の経済発展の足かせとなっていて、水のリサイクル利用が注目を集めています。中国の精神文明建設における水文化のレベルアップ、水意識の向上がますます重要になっています。

また、水はエネルギーと同様、21世紀の国際関係においてホットな話題となっており、先進国と発展途上国との重点的協力分野となっています。中国では、水という伝統的な公共事業もすでに民営化、商業化の道を歩みはじめていて、水道、水処理の産業はすでに対外開放されています。水利権の意識が徐々に形成され、水経済という概念が普及しはじめています。今、英、仏、米などが続々と中国の水産業に参入していて、水関係の施設建設と運営に参与しています。これと同様に、日中両国間で水の分野で協力をおこなう

余地はおおいにあります。とりわけ、水エコロジー分野では、日中間には密接な利益関連と責任の共通性があります。ですから、日中が水の分野で協力をおこなうのは必然的なことです。

中華全国青年連合会は中国の重要な政治勢力であり、そのメンバーの多くは中国の政府機関で要職に就きます。また、社会・政治・経済の活動に参加することは中華全国青年連合会の重要な職務でもあります。たとえば「希望工程」は国内外から大型の公益活動として認められていますが、これも中華全国青年連合会が創意し実施したものです。いま、中華全国青年連合会は「母なる河を守るキャンペーン」を發起、実施し、社会全体のエコロジー文明のレベルアップを図っています。汚染対策、節水、水資源開発はこれから取り組むべき事項です。

地球規模の水問題解決への協力を実現するためには、社会資源の整合性の確保と官民の協力が重要です。日中環境協力の内容を充実させ、範囲を拡大し、日本のすすんだ節水浄水技術に学び、日本の水利設備と運営の経験に学び、日中両国の青少年の環境協力意識を向上させ、「母なる河を守るキャンペーン」を一層深く推進するために、中華全国青年連合会では2004年4月10日から北京で4日間の「日中民間水フォーラム」をおこなうことを決定しました。フォーラムは全国母なる河を守るキャンペーン指導チーム事務所、中華全国青年連合会国際プロジェクト協力センターなどが運営を担当し、中国の水利部、建設部、国家環境保護総局などが後援団体になります。京都での「第3回世界水フォーラム」への積極的な呼応として、中国側は今回の「日中民間水フォーラム」を提唱しますが、その趣旨は日本、中国の2大国のこの分野における共同責任と義務をあきらかにすることです。

フォーラムは次の3つの部分で構成します。

1. テーマ別フォーラム。「水と人類文明、水と持続可能な発展、水と都市・農村建設、水と青年」をテーマに、日中双方の方々を組織して意見交換し、共通認識を深めます。

2. 政策提言。「水資源保護、水利工事運営、水道事業改革」などのテーマをめぐって、日中の専門家、学者、官僚の意見、提案を求め、たがいに学び、参考にします。

3. 技術商談。「節水技術、水リサイクル技術、水汚染対策技術」をめぐって、河川・湖沼の浄化及び都市・農村地域の生活汚水のリサイクル利用を重点に、合併、合作、技術供与などの形式で、日中双方の代表を組織して交流、商談します。

今回の「水フォーラム」の目的は、私たちの組織と動員力の強みを生かし、日中両国政府および民間の力を動員し、橋渡しの役割を発揮し、それぞれの国の水エコロジー状況を紹介しあい、直面している水問題の対策を検討し、各自の水文化を交流し、水分野での双方の各種の必要性を結びつけ、日中両国の間で広く深く水協力をおこなうきっかけと土台をつくり、両国社会界に水問題に関心を持つ雰囲気をつくり、両国の有識者の水問題に対する政策提言をしめすことです。

緑の地球ネットワークは、今まで水分野で有益な試みをおこないました。我々は、時代の先端をすすみ、開拓精神をそなえた社会団体である緑の地球ネットワークと協力し、この水フォーラムを日中環境保護協力分野での、特徴のある効果的な活動にします。私たちは水問題に関心をもたれる日本の政治家、高級官僚、日本各地の給排水運営業者、大型水利施設施工・運営業者、各種水設備製造業者、節水・整水・浄水技術研究開発企業、水管理機関、水問題研究者、水ビジネス投資機関などが今回の水フォーラムに参加されるよう心から望みます。

2004年1月5日

注) 日程が4月20日以上になる可能性もあるそうです。関心のある方はGENまでお問い合わせください。

黄土高原史話〈17〉

いま、樵夫（きこり）の歌は聞こえない

谷口 義介（摂南大学教授）



白川静博士に、ある折こうお聞きしたことが。

「先生の最も愛好される『詩経』中の一編はどれでしょうか。」

ちなみに、私の方は豳風（ひんぷう）七月の詩（本シリーズ〈15〉参照）

「調べの美しさに限っていえば、魏風の伐檀あたりではないか。」

弱年より歌作のたしなみあり、後年まで謡（うたい）を趣味とされたので、詩歌のリズムを重視されるのでしょうか。

「坎々（かんかん）として檀（えのき）を伐ち、

これを河の干（ほとり）に實（お）く。

河水清くして、かつ漣（なみ）だつ。（第一章）

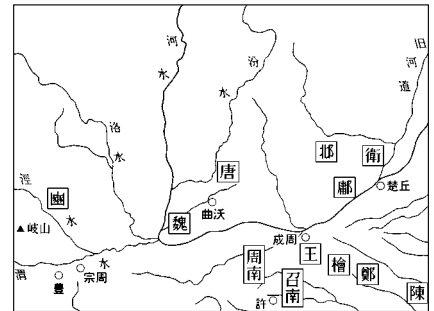
この歌い出しの部分、薄田泣菫『古鏡賦』の「斧（おの）に倒れし白檀の高き香（か）森に散る如く」を想起せしめる、とも。

伐檀の詩は木を伐り出しながら領主への不満を歌ったものですが、「檀」とは華北特産のニレ科の落葉喬木。「まゆみ」と和訓するのは間違いのようです。第二・三章に「輻」（車の矢）・「輪」（車輪）を作るとあり、材質はきわめて堅い。

魏風は魏の国振りの歌。ただし春秋時代の晋が三分されて韓・魏・趙となった戦国期の魏ではなく、それよりはるか前のB.C.660年、晋に滅ぼされた古国の魏の方。その地は山西省の南西隅、黄河の屈曲部の北東側に在り（図参照）。東に連なる中条山脈には、数十年前までヤナギ・ナラ・クリ・エノキ・ニレなど、第二次幼齢林ながら観察できた由。ましてそれより2600年の昔、周囲に森林が豊富だったとすれば、

「清く澄んだ河水も波立っている」という上掲の一句も納得できようというもの。黄土がむき出しだと、土砂が流れ込んで、河川は黄濁するわけですから。ちなみに『詩経』の時代、まだ黄河の名は見えず、「河」「河水」と呼ばれています。

古国魏のほか、西周初の武王のとき、この方面に点々と封じられた八国の一つに韓あり。B.C.757年、これも晋によって滅ぼされました。大雅韓奕（かんえき）の詩は、それより数代前の韓侯が朝見の礼を終えて、新婦と共に帰国するのを寿（ことほ）いだもの。詩中の「韓土」は山西の韓原付近、「梁山」とはおそらく呂梁山脈、「北国」とあるのは王都鎬京（今の西安市西郊）から見てほぼ北方に当たるからでしょ



う。その地には毛皮を取るクマ・トラ・ヒョウ・シカなどがたくさんいると国ほめています。これも森林が豊かに存在していた証拠。

ただし『詩経』では、土地の豊饒や人の長寿をたたえる場合、ふつう植物を歌い込みます。たとえば、

「かの早〔山〕の麓を瞻（み）れば、榛（はしばみ）・楛（なまえ）済々たり」（大雅旱麓）

「南山の寿の如く、……松・柏（このてがしわ）の茂るが如く……」（小雅天保）

などと。植物、特に常緑樹の繁茂をいうのは、そこに盛んな生成力と変らぬ永続性を見るからでしょう。

「めでためたの若松さまよ、
枝も栄えて葉も茂る」
と歌う山形県の花笠音頭も、これと同じ。

大同におけるGENの緑化協力—5—

霊丘自然植物園

「緑化協力を実のあるものにするためには、植物園をつくるべきだ」というのが、立花吉茂代表の最初からの提案でした。人材の確保と自然の条件を考えて、霊丘県で候補地探しをはじめたのが1997年。その過程で地元技術者が自然林をみつけてきました。「こんなナラがあります」といって、一抱え以上のジェスチャーをするんですけど、自分の目でみないことには信じられません。

案内されたのは村里離れた山のなかで、道もありません。最初の2回は途中でダウンし、行くのをあきらめたほど。3回目にやっとたどりついたのは、河北省との境界に近い碣寺山（1,768m）の山頂近く。

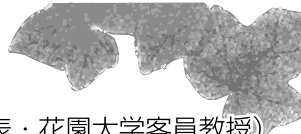
北側の日陰斜面を中心に、ナラのほか、カバノキ、カエデ、シナノキ、トネリコなどの落葉広葉樹が茂っていました。遠田宏顧問によると「種はちがっても、属のレベルでは日本の東北・

北海道の山と共通しています」とのこと。林床には落ち葉や腐葉土が厚く溜まっていました。

そこから遠くなく、地形も似通った上寨鎮南庄村の近くで、86haの土地の100年間の使用権を購入し、植物園づくりをはじめました。植物の遷移を観察しこの地方の緑化の道筋を探る、他の地方からも可能性のある植物を集め試験栽培と馴化をすすめる、栽培技術の向上と人材の育成、多様性のある森林のモデルをつくる、といったことがその目的です。

周囲の村と協定して（次頁につづく）

植物を育てる (26)



立花 吉茂 (GEN代表・花園大学客員教授)

クスノキ科の種子発芽

クスノキの仲間の種子発芽については昨年3月に本紙に書いた。ここでは冬季に保温するとどうなるか？ についての実験結果を報告する。

クスノキ科には常緑の種と落葉性の種とがあるが、落葉性のうち、クロモジ、ダンコウバイ、シロモジは北方系で、アオモジは南に分布する。

実験の方法

大型のプランターに培養土を入れ、200粒の種子を蒔いた。対照区は戸外に置き、保温区はガラス室に保温の電熱線を張り、砂で覆ってその上にプランターを置いた。2か年にわたる発芽床の温度を図1に示す。

実験の結果

実験の結果を図2に示す。対照区ではただ1種タブノキだけは年内に発芽を完了するが、他の10種はすべて翌年夏に発芽した。しかし、保温区では3つの群に分かれて発芽した。北方系の3種の落葉性種は発芽が遅く、発芽率が極めて低く、ほとんどの種子が腐敗した。これらの種は、冬季低温で越冬すると正常に発芽する性質があるこ

とがわかった。タブノキを除く他の種は保温によって発芽が若干早くなった。

クスノキ科の種子は液果なので、十分熟させてから、果肉を除いて湿度を保つ必要があり、乾燥すると発芽力がなくなるので注意を要する。

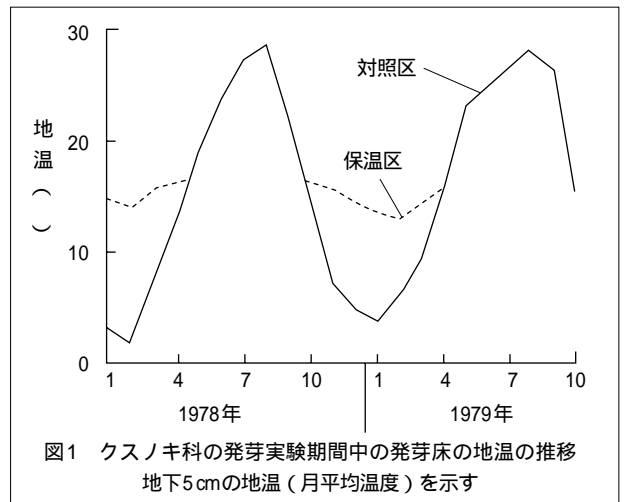


図1 クスノキ科の発芽実験期間中の発芽床の地温の推移
地下5cmの地温(月平均温度)を示す

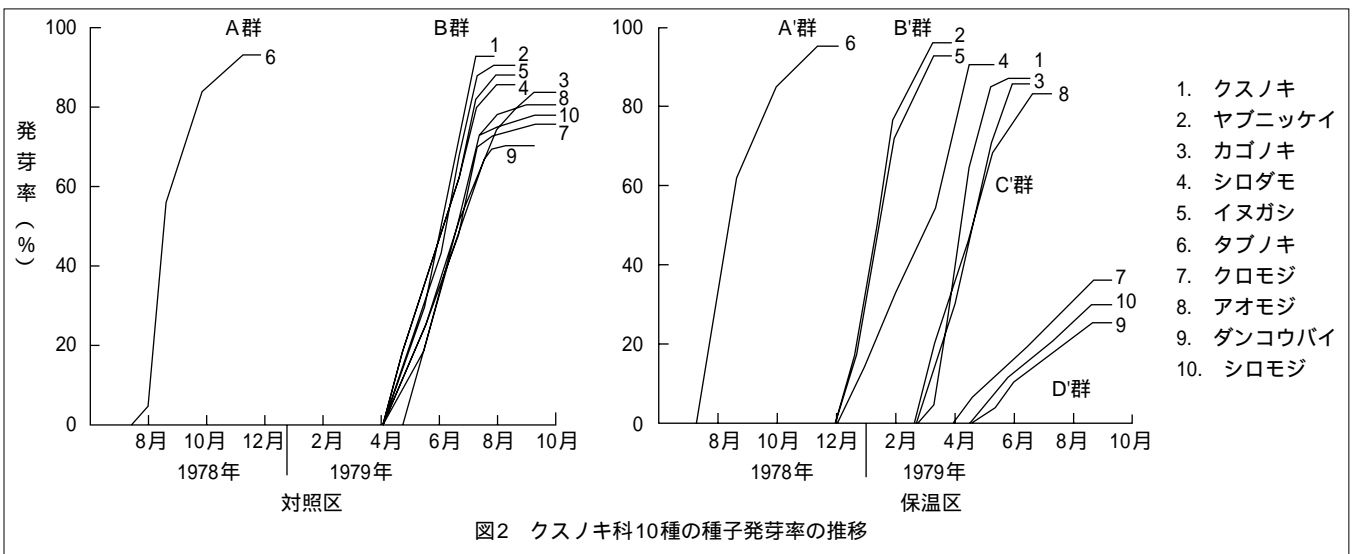


図2 クスノキ科10種の種子発芽率の推移

(前頁よりつづく) 柴刈りと放牧を禁止し、管理棟を建てて職員が常駐するようにしました。すると、目にみえて大きな変化がありました。それまでは草もまばらで丈も低かったのですが、胸や肩の高さまで灌木や草が伸びてきました。作業に不便なので、立花先生に「ヒツジを教育して作業道のところだけ食べさせるわけにはいきませんか」と冗談をいいました。以前は毒のあるもの、トゲのあるものが目立ったのですが、ハギやウマゴヤシなどマメ科やイネ科の植物が増えてきました。

「山丹丹」は恋の花として歌にうたわれる艶のあるオレンジ色のユリで、1本でもみつかるとうれしかったんですけど、いまではあちこちに群落ができ、昨年は1m²に38本も咲いたそうです。アツモリソウもきれいな花を咲かせ、昨年は種をつけました。

山の上のほうでは、リョウトウナラが立ち上がってきました。最大のもは樹高9m、胸高直径15cm。乾燥の強い南面の日向斜面は植物が育ちにくく、地肌がみえていたんですけど、灌木状のトネリコがそこを埋めて、緑がどん

どん濃くなりました。谷筋ではシラカンバが自生してきています。池本和夫さんの調査によると、小鳥の種類も数も増えていますから(前号参照) 良性の循環がいつそう強まるでしょう。

自然の力による再生だけではありません。技術者たちはあちこちの自然林から種を集め、育苗に力をいれています。それらの苗は園内に植えるだけでなく、カササギの森をはじめ、他のプロジェクトにも供給されます。霊丘自然植物園はこの緑化協力の「希望」といっていいでしょう。(高見邦雄)

関東ランチから

11月月例会

『中国河北省豊寧県満族自治県における砂漠緑化活動』報告

伊藤 知美 (大学院生)

関東ランチ11月の例会(11月29日、立教大学にて)は、地球緑化センターの丸井みのさんと高戸祥子さんが事業概要とボランティア派遣について、トヨタ自動車(株)バイオ緑化事業部の國友淳子さんが研究プログラムについて講演してくださいました。トヨタと地球緑化センターは協力して中国の豊寧県で緑化事業をおこなっています。今回はそれぞれの立場からお話をうかがうことができました。

地球緑化センターは日本国内と中国で植林ボランティアをつづけています。国内では1年間農山村に住みこむ「緑のふるさと協力隊」と、週末に山林の手入れをする「山と緑の協力隊」があります。中国では内モンゴル、重慶、豊寧の3か所で植林をしています。活動をはじめて11年になる内モンゴルのエジンホ口では、重点を植林からその成果の確認に移しているそうです。長江流域の重慶では水土流失抑制のための植林を5年前にはじめました。北京の北180kmの豊寧は砂漠化地域です。活動をはじめて3年目で、植林樹種の選定などトヨタの支援をえて植林をすすめています。

高戸さんは豊寧でのボランティア経験を基に話してくれました。植えるにつれて毎年少しずつ景色が変わっていくのが楽しみだとか。中国でもボランティア意識がめばえているようですが、まだ社会見学の側面が強いそうです。

最後にトヨタの研究プログラムについて。バイオ緑化事業部は中国豊寧県人民政府や中国科学院、地球緑化センターと協力して「砂漠化を繰り返さないための緑化」を目標に、1,500haに植林してきました。環境計測や耐乾性樹種の選定、植林地の植生回復モニタリングもおこなっています。

植林地の豊寧県シャオバズ地区は標高900~1,600m、年降水量462mm、年平均気温7.5で、70年代から土地荒廃がすすんでいます。緑化方法は封山育林 植生回復 植物バイオマス利用

を基本とし、山地の急斜面では封山育林と植林、砂斜面では草方格、緩傾斜地では果樹植栽、谷部では防風林建設、牧草地、換金作物栽培をおこないます。植林には、山地部に山杏、アブラマツ、カラマツなど、谷部にポプラ、ヤナギ、沙棘(ヤナギハグミ)などを植え、牧草は沙打旺(ムラサキモメンズル)、草苜蓿(ウマゴヤシ)を用いています。

研究調査では緑被率の増加や飛砂量

の減少、地温の低下、牧草の刈取り回数などが確認されています。今後も、環境改善と住民の経済的自立、植林技術向上をめざした技術研究をつづけるということです。

当日は30名以上の方が集まって議論が白熱し、國友さんもみんなの意識の高さに感心していました。今後も交流をつづけたいと思います。

エコプロダクツ2003に参加して

弦巻 敦

12月11日から13日まで緑の地球ネットワーク関東ランチはお台場の東京ビックサイトでおこなわれた「エコプロダクツ2003」に参加しました。

環境に配慮した商品やサービスを提供する400以上の企業や団体が参加しており、自動車から文房具までさまざまなものが紹介されていて、「エコ」がひとつのトレンドになっているのだなど実感しました。

そんななかで、緑の地球ネットワークのブースには展示物や書籍、パンフレットなどがところせましと並べられ、一緒に参加したボランティアの人と「この雑然とした雰囲気は中国風だね」と笑いあっていました。

私が参加した12日は、平日にもかかわらず小・中学生から社会人まで幅広い層の人が見学にきていました。面白そうにみている学生や個人的に環境問題や国際協力に興味をもっている会

社員がいたり、ここでも環境問題の関心の高さを実感することができました。問題はそのなかでどのように緑の地球ネットワークをアピールするかで、熱心にきいてくれた人もいれば、こちらにはみむきもせず企業のブースに直行する人もいました。

また、関心をもってきいてくれても、難しい質問や細かいことにはうまく答えられず、いつわりや誇張なく「本当のこと」をどこまで伝えられたかが気がかりでした。説明する側として参加してみて、伝えること、わかってもらうことの難しさを実感しました。

それでも、数名の方が名刺を置いていたり資料の送付先を書いてくれたりしました。ささやかながらネットワークの輪が広がっていくことに貢献できたのではないかと思います。こうした小さな積み重ねを大切にしたいと思いました。

2004 春の黄土高原ワーキングツアー

霊丘自然植物園をメインに、村での植樹・交流、ホームステイやカササギの森訪問などを予定しています。

あの村の人たちの笑顔に会いに、でかけませんか。

日程：2004年3月24日(水)~31日(水)

費用：一般=16万円、学生=15万円(国際航空運賃、中国国内での

交通費/食費/宿泊費、GEN年会費を含む。旅券取得費用、空港使用料、航空保険料は含まない)

中国国際航空利用予定 関西・成田空港発着(GENスタッフは関空発着便のみ同行)

定員：30人

申込締切：2月20日(早まりました。定員に達し次第締め切ります)



六甲奨学基金のための 第7回古本市

六甲奨学基金の主な活動は、毎年5名の兵庫県下の留・就学生への奨学金の支給と、留・就学生および家族などを対象にした日本語ボランティア教室の開催です。ご家庭に眠っている不要な本を役立ててもらいませんか。

受付期間：3月1日～31日（必着）

送付方法：直接持参または送料送り
主負担で送付

【注意】

- ・読む人の立場になって、汚れ・破れのひどいものはご遠慮ください。
- ・辞書大歓迎。絵本、マンガ、洋書可。
- ・雑誌、教科書、参考書、コンピュータ解説書、百科事典などは不可。
- ・価格設定はおまかせください。お送りいただいた本はお返しできません。販売時に使用する手さげ紙袋も集めています。

【古本市ボランティア募集】

3月15日から5月15日までの古本市期間中のボランティアも募集。可能な日にち・時間を主催者まで郵便、ファ

* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。

* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

ックス、eメールでご連絡ください。
送付先・問合せ先：（財）神戸学生
青年センター 古本市係（〒657-
0064神戸市灘区山田町3-1-1 TEL.
078-851-2760 FAX. 078-821-5878
URL <http://www.ksyc.jp> e-mail：
info@ksyc.jp）

自然環境市民大学 第2期・受講生募集

自然や自然保護の知識を学んだり活
動を体験し、さまざまな保全活動に実
践的に取り組む人材の養成講座です。

受講料：55,000円（協会会費が別途
必要）

定員：35人程度

期間：4月から05年3月まで30回程
度。原則として第1・2・4水曜日の
10時～15時30分ごろ。室内講座・
野外講座があります。

締切：2月16日（月）

主催：ネイチャーおおさか（（社）
大阪自然環境保全協会）

申込方法：課題作文により受講生を
選考。「自然への思いと受講の動機」

400～600字。A4サイズの原稿用紙
に手書き、またはA4用紙にパソコ
ン・ワープロ打ち（1行20字）冒
頭に氏名・性別・生年月日・郵便番
号・住所・電話番号・FAX番号・
大阪自然環境保全協会の会員が否
か・会員の場合は種別を明記し、課
題作文を同封して2月16日必着で下
記まで郵送。FAXやeメールでの申
込めは受け付けていません。

申込先：（社）大阪自然環境保全協
会 市民大学係（〒530-0015 大阪
市北区中崎西2-6-3 パステル1-201
TEL. 06-6374-3376 FAX. 06-6374-
0608 <http://www.nature.or.jp>
e-mail：office@nature.or.jp）

受講可否の連絡：3月10日ごろ

編集後記

いつかテレビで見た女の子。パレス
チナ難民だったかもしれませぬ。「日
本はいいな。法律で戦争しないって決
まってるんでしょ？」平和を知らな
いこの子の切なる平和への願いにこた
えるような、日本ならではの国際貢献
の方法がきっとあるはず。（東川）